



富山市の遺跡物語



冬の北代縄文広場

創刊にあたって

平成 11 年 4 月に富山市教育委員会埋蔵文化財センターが発足した。埋蔵文化財（遺跡）とは何か？ センターはどんな仕事をしているのですか？

このような疑問に答えるには、様々な方法があろう。まずは、ここに「富山市の遺跡物語」を発刊し、私たちの仕事内容を紹介するところから始めたいと思う。所報紙を「物語」としたのは、“物でもって語らせる”意欲と受け取ってもらいたい。併せてロマンもあって良いだろう。遺跡や遺物は土地に展開された歴史を物語る。掘り出された資料をいかに語らせるかの努力は私たちの勉強にもなる。

ゆっくりとかつ着実に歩みを重ねていきたいと思っている。



埋蔵文化財センター外観

所長 藤田富士夫

北代縄文広場完成! 史跡北代遺跡を四千年前の姿に復元

富山市北代地内に所在する史跡北代遺跡は、縄文時代中期の大集落遺跡として昭和59年1月に国の史跡に指定されました。平成8~10年度に復元整備を行い、平成11年4月29日、「富山市北代縄文広場」として公開されました。

広場には、出土品を見学したり、縄文土器づくりが体験できる「北代縄文館」、復元された竪穴住居や高床倉庫、湧水地、土の堆積のようすがわかる土層展示場、土器の野焼きができる体験広場などがあり、県内外からたくさんの方々に訪れていただいています。

4月29日のオープンには、約2,000人の方が集いました。縄文食まつり、縄文のうたげ、手作りはがき、土器作り体験、石器体験などさまざまなイベントを行いました。なかでもセンター苦心の縄文クッキーと柄もちには行列ができるほどの人気を集めました。

7月22日には早くも入場1万人を達成し、平成12年3月31日現在で16,645人を数えております。

広場の中央に復元された竪穴住居5棟は、全国でもまだ3例目の珍しい土屋根住居です。

この竪穴住居に囲まれた中央には、高床倉庫があります。小矢部市桜町遺跡で復元されたものと異なり、壁のない三角の形をした、「屋根倉」形式の倉庫です。二又になった枝のところを用いて木を組む建築方法を用いています。同じ時代にあっても、桜町遺跡ではほぞ穴を開けるなどの新しい加工技術を使ったのに対し、北代遺跡では古くからある伝統的な建築技術を用いたところに特色があります。

北代縄文広場には、ご紹介できないくらいたくさんの“なぞ”があります。土器作りや火起こしなどにチャレンジして、縄文の“なぞ”を解いてみよう!

【利用案内】

北代縄文広場／北代縄文館 〒930-0103 富山市北代 3871-1 TEL・Fax 076-436-3664

- ・縄文館の休館／毎月曜、祝日の翌日（祝日の翌日が土・日曜日の場合は開館）
- ・入館料／無料
- ・体験学習／縄文土器作り（200円から）

※詳しくは縄文館へお尋ねください



地元の皆さんによるオープンを祝う獅子舞

北代縄文広場この1年

年月日	できごと
平成11年4月22日	毎日新聞「土ぶき」竪穴住居を復元
平成11年4月23日	ミミの北代日記刊行
平成11年4月28日	竣工式
平成11年4月28日	北日本新聞 北代縄文広場が完成
平成11年4月29日	一般公開／オープニングイベント／記念講演 渡辺誠名古屋大学教授「縄文人の食文化」

平成 11 年 4 月 29 日	富山新聞 県内初土ぶき竪穴住居を復元 読売新聞 縄文期建物を復元
平成 11 年 4 月 30 日	北日本新聞 縄文の技に挑戦
平成 11 年 5 月 1 日	ミミの北代日記 2 刊行
平成 11 年 5 月 2 日	北日本新聞 連載 遊ぶ学ぶ縄文・富山市北代遺跡 1
平成 11 年 5 月 4 日	北日本新聞 連載 遊ぶ学ぶ縄文・富山市北代遺跡 2
平成 11 年 5 月 5 日	北日本新聞 こども一日記者／連載 遊ぶ学ぶ縄文・富山市北代遺跡 3
平成 11 年 5 月 7 日	北日本新聞 連載 遊ぶ学ぶ縄文・富山市北代遺跡 4 富山新聞 竪穴住居で宿泊体験
平成 11 年 5 月 8 日	富山シティエフエム 古川主任学芸員出演
平成 11 年 5 月 9 日	北日本新聞 連載 遊ぶ学ぶ縄文・富山市北代遺跡 5
平成 11 年 5 月 10 日	北日本新聞 天地人
平成 11 年 5 月 31 日	北代縄文通信第 1 号発行
平成 11 年 6 月 2 日	グループウェイノによるアンデス地方音楽の演奏
平成 11 年 6 月 5 日	FM とやま 富山県聞録 古川主任学芸員出演
平成 11 年 6 月 6 日	北日本放送 富山県です～遺跡が語るいにしえ藤田所長出演
平成 11 年 6 月 7 日	北陸中日新聞 縄文のロマン満喫
平成 11 年 6 月 20 日	富山テレビ クイズフォーカスイン II 紹介
平成 11 年 6 月	北日本新聞たうん情報誌 9 0 8 掲載
平成 11 年 6 月 26 日	富山新聞 「竪穴式住居」の開放決定
平成 11 年 6 月 30 日	北代縄文通信第 2 号発行
平成 11 年 7 月 1 日	北日本新聞 長岡小 6 年の取材
平成 11 年 7 月 7 日	北代縄文広場宿泊体験（センター職員等）
平成 11 年 7 月 9 日	富山新聞 縄文住居は夏の夜快適
平成 11 年 7 月 15 日	全国史跡整備市町村協議会北信越地区協議会視察
平成 11 年 7 月 20 日	Horaishi group Newsletter Digest 四千年前の情景と知恵が今甦る
平成 11 年 7 月 22 日	入場 1 万人目を迎える（水見市萩原地区社会福祉協議会 会長 松波平八郎さん）
平成 11 年 7 月 23 日	北日本新聞 早くも入場者 1 万人 富山新聞 入場者 1 万人を突破
平成 11 年 7 月 25 日	月刊タウン情報とやま 富山レジャー探検記 どっか行こ！ Toyama 編 紹介
平成 11 年 7 月 31 日	親子縄文遺跡バスター 小矢部市教委主催 北代縄文広場で宿泊学習
平成 11 年 7 月 31 日	読売新聞 縄文ロマンにタイムスリップ
平成 11 年 8 月 1 日	北陸中日新聞 縄文の道具で火おこし挑戦
平成 11 年 8 月 1 日	北日本新聞 竪穴住居で宿泊体験 富山新聞 縄文生活親子で体験
平成 11 年 8 月 1 日	朝日新聞 火おこしに歓声 縄文体験
平成 11 年 8 月 26 日	富山県埋蔵文化財センター普及講座「ふるさとの考古学」
平成 11 年 8 月	古川主任学芸員「史跡の保存と活用～富山市北代縄文広場のオープンから～」
平成 11 年 8 月 31 日	富山県人 北代縄文広場で宿泊体験 竪穴式住居は快適
平成 11 年 9 月 8 日	北代縄文通信第 3 号発行
平成 11 年 9 月 8 日	KNBコンビニラジオ相本商店いらっしゃいませ～「奥羽の日特集」藤田所長出演
平成 11 年 9 月 18 日	富山市自治公民館連絡協議会第 3 ブロック協議会講演会 藤田所長「縄文人の生活と心」
平成 11 年 10 月 5 日	長岡校老人会連合会清掃奉仕
平成 11 年 10 月 5 日	北日本新聞 北代縄文広場きれいに 富山新聞 北代縄文広場の清掃に汗
平成 11 年 10 月 16 日	富山テレビ 北信越再発見～Newハイウェイ安近短マップ～ 紹介
平成 11 年 10 月 19 日	富山新聞 解説ボランティアが発掘体験 北日本新聞 発掘体験 解説に生かそう
平成 11 年 10 月 19 日	市公連第 1 ブロック協議会講演会 藤田所長「北代縄文広場について」
平成 11 年 10 月 20 日	社会福祉法人富山市社会福祉協議会「ふるさと探訪講座」
平成 11 年 10 月 30 日	藤田所長「古代の富山（ロマンを訪ねて…）」
平成 11 年 11 月 10 日	ミミの北代日記 3 刊行
平成 11 年 11 月 10 日	社会福祉法人富山市社会福祉協議会「ふるさと探訪講座」
平成 11 年 11 月 13 日	古川主任学芸員 探訪「古代の富山」
平成 11 年 11 月 15 日	富山市上飯野新町内文化祭文化講演会
平成 11 年 11 月 15 日	古川主任学芸員「北代遺跡から見た縄文文化について」
平成 12 年 1 月 1 日	新庄中学校「社会に学ぶ“14 歳の挑戦”」北代縄文広場で体験学習～11 月 19 日
平成 12 年 2 月 19 日	北代縄文通信第 4 号発行
平成 12 年 2 月 26 日	糸魚川市長者ヶ原遺跡友の会講演
平成 12 年 2 月 26 日	古川主任学芸員「北代遺跡の保護と活用について」
平成 12 年 2 月 26 日	縄文広場で雪まつり（長岡校下自治振興会主催）

金屋南遺跡は、富山市中心部から南西約5kmの金屋地内に所在します。遺跡の西側には呉羽山丘陵が広がり、最高位の城山には白鳥城が築かれています。また、遺跡のすぐ東側に接して神通川支流の井田川が流れおり、遺跡はこの自然堤防上、標高11mに立地しています。

発掘調査は、金屋企業団地造成に伴って平成8年度から実施しています。調査の結果、遺跡は平安時代（10世紀）・鎌倉～室町時代（12～15世紀）を中心とした大規模な集落跡であることがわかりました。鎌倉～室町時代には、溝で区画された敷地内に掘立柱建物・溝・井戸・土坑・畠・道路などが見つかり、計画的な集落構造がうかがえます。

平成11年度は、遺跡の中央部分約10,800m²を対象に発掘調査を行いました。

●調査地西側 砂地の比較的高い場所に位置します。中央を幅3～4mほどの大溝が南北方向にのび、集落内を区画しています。また、大溝に東西方向の溝が直交し、さらに幾つかのブロックに分かれています。各ブロックでは、土壙・小ピットが集中してみられ、井戸も数基まとまって分布しています。土壙は方形・楕円形・円形と形態にバラエティがあり、中世土師器の皿・鉄製品（刀子・はさみ）・銅錢（中国の北宋錢）などが埋納されているものもあります。また、人頭大の焼けた礫を大量に入れている穴もみられます。

幅1mほどの溝からは馬歛が口を北側にし、右あごを上に向いた状態で出土しました。馬の頭をそのまま置いたものと考えられますが、頭骨は腐食して、歯の部分だけが残っています。雨乞い儀式との関連性が考えられます。

●調査地東側 東側には河川跡（旧井田川）があり、川べりで鉄や銅をとかす溶解炉が見つかりました。溶解炉は、地下構造の部分だけが残っていました。一度使った炉壁を円形状に地面に埋め込み、内部には細片となった炉壁を平らに敷き、上に粘土をはっています。川べりでの操業のため、湿気を防ぐ施設をつくったものと思われます。炉の周辺には、川の斜面を利用して炉壁・鉄滓・鋳型・炭などが廃棄され、厚く堆積しています。その広がりは34m×15m、深さは2m近くありました。鋳型には、鉄鍋や梵鐘などがみられます。一緒に見つかった土器の年代から、溶解炉の操業期間は15世紀と考えられます。

河川跡の中からは、銅製提子（酒をそぞぐ容器）が出土しました。提子の中には、太刀の部品が敷き詰められ、白銅製の鏡が上に置いてありました。提子は直径19cm、高さ8cmのもので、つり手には三連の花菱亀甲文など文様が彫られています。溶解炉と同時期の15世紀のものと考えられます。鏡は、直径11.4cmの洲浜秋草双鳥鏡で、萩・女郎花・桔梗・2羽の雀が描かれています。14世紀前半に京都の鏡工房で製作されたものです。鏡の横には角釘状のもので穴があけられており、鏡のものもつる術性を失わせていると推測されます。太刀の部品には、鏡と重ね合わせる「切羽」（大切羽・小切羽の2種類）・帶をまとめる「七ツ金」・柄の先端の「縁頭」があり、いずれも14世紀前半に製作されたものです。「縁頭」や「七ツ金」には丁寧に鳥が彫られているものもあります。鏡や太刀の部品は伝世され、15世紀にまとめて提子に入れられたと思われます。

このような調査成果から、当地には大規模な集落が形成され、15世紀には鋳物生産を大々的に行っていたことが明らかになりました。「金屋」という地名の由来につながると推測されます。また、鏡や太刀の部品が銅製提子に入れられ、まとまって出土した類例はなく、全国的にも貴重な発見です。その意味合いについては、川への埋納や、鋳つぶして再利用しようとしたなど様々な解釈が考えられます。

（小林高範）



調査区全景（西から）



馬齒出土状況



溶解炉



提子出土状況



洲浜秋草双鳥鏡

弥生時代の方形周溝墓の発見 清水堂南遺跡

水橋清水堂地区では、県営は場整備事業に伴い、平成6年度から調査を行ってきました。平成11年度の清水堂南遺跡の調査では、弥生時代後期から終末期、鎌倉時代から室町時代、江戸時代前期の3時期の遺構を検出しました。遺跡は白岩川右岸の河岸段丘上に位置し、豊富な水資源を求めて早くから人々が生活を営んでいたようです。

●弥生時代後期から終末期の遺構 埋葬施設の周りに方形の溝をめぐらせた方形周溝墓（1辺約8m）が見つかりました。溝は四隅を掘り残したタイプのもので、深い所で約0.3mを測ります。東西2辺の溝のほぼ中央で弥生土器が見つかっています。東側の溝から出土した弥生土器は、壺のくびから上を欠いた状態で逆さになって出土しています。

また、この方形周溝墓の北西約10mに円形周溝墓（直径約11m）が見つかりました。溝は北西の一部が途切れる構造を持ち、県内で唯一発見されていた富山市杉谷A遺跡の円形周溝墓と同じタイプのものと思われます。埋葬施設は、方形周溝墓、円形周溝墓とも墳丘が削られているため残っていませんでした。

これらの墓から東へ約50m離れたところには、直径1.5m～2.3m大型円形土坑が約20基見つかりました（平成7年度調査）。この大型円形土坑は墓穴である可能性が高く、ここに葬られたのは身分の低い一般の村人だったのでしょう。それに対して、方形周溝墓や円形周溝墓に葬られたのはこの地域の有力者だったと考えられます。一般の村人の墓と離れて有力者の方形周溝墓と円形周溝墓が並んで築かれるという様相は杉谷A遺跡にも共通したものです。

これらの墓を築いた有力者は後の古墳時代に築かれる「白岩川流域古墳群」の先駆けとなる勢力を背景としていたと考えられます。



方形周溝墓と円形周溝墓

また、玉作り関連の遺物が主に調査区の東側から出土しました。ヒスイの勾玉未成品、ヒスイ・緑色凝灰岩・鉄石英の剥片、筋砥石などがあります。平成10年度の調査区（11年度調査区の約100m北東に位置する）では、蛇紋岩製の勾玉・緑色凝灰岩製の管玉のほか、玉作り資料が約60点出土しました。工房跡は発見されませんでしたが小規模な玉作りが行なわれていたようです。玉作りにかかわった人々の生活域は遺跡の北東部に存在すると思われます。

●鎌倉時代から室町時代の遺構

溝、竪穴状遺構、井戸

戸が見つかっています。

竪穴状遺構からは珠洲焼や漆塗木製品が出
土しました。井戸は
曲物を積み上げたもの
が検出されました。

●江戸時代の遺構

作業場と考えられる

方形竪穴状遺構、屋敷

と考えられる掘立柱建物、井戸の組合せからなる屋敷地割が検出されました。屋敷地と屋敷地の境は溝によって仕切られています。東の屋敷地には大型の方形竪穴状遺構（5.4m×6.5m以上）と、1間×3間（4.3m×16.3m）・2間×2間（8.6m×10.5m）の掘立柱建物を持つ屋根地、溝をはさんで西の屋敷地には小型の方形竪穴状遺構（3m×4.1m）と、1間×2間（3.9m×9m）・1間×1間（4.3m×5.6m）の掘立柱建物を持つ屋敷地があり、それぞれ「本家のないエ」、「分家のないエ」と考えられます。

調査地には「与三兵衛屋敷」という字名が残っており、今回検出された屋敷割との関係が注目されます。

掘立柱建物の柱穴には、人頭大の石や五輪塔の水輪を転用し根石（柱を立てる際に柱の下に据える石）にしたものが見られました。江戸時代の井戸は11基検出されました。石組み井戸1基の他はすべて素掘りの井戸でした。

井戸や土坑からは多くの越中瀬戸焼が出土しました。集落か

らはあまり出土しない匣鉢の蓋などの窯道具や、焼きの悪い不良品も多く出土している事から、生産地との直接的な関係がうかがわれます。白岩川を利用して、上流の立山町の生産地から窯道具ごと製品を運び、遺跡の近くにあった船着場で一部荷を下ろし、各消費地に向け運ばれしたことなどが考えられます。



江戸時代の方形竪穴状遺構



越中瀬戸焼が出土した井戸跡

（安達志津）

東西旧石器文化の交流

向野池遺跡・境野新遺跡

向野池遺跡と境野新遺跡は富山西インター チェンジの建設工事に伴い、発掘調査を行いました。

両遺跡のある境野新扇状地は、富山市平岡付近を扇頂とし、東の呉羽山丘陵と西の射水丘陵の間を北に向って開く旧扇状地形です。起伏の多い地形を利用して、古くから数々の遺跡が営まれていました。両遺跡は、扇頂部の浅い谷地形を挟んで約500m離れています。

向野池遺跡は、かつてのかんがい用ため池「向野池」の北東に位置します。緩やかな勾配をもつ丘の斜面に、平安時代の溝・穴・土坑を検出しました。溝の中からは須恵器・土器が出土しました。

また、旧石器時代の尖頭器・凝灰岩質の剥片2点・安山岩の剥片などが見つかりました。尖頭器は薄い縫長の濃飛流紋岩製の剥片を用いて作られており、長さ5cm、幅2.7cmの大きさで、両側縁をていねいに加工しています。安山岩の剥片は瀬戸内系の剝離技法で作られています。他に縄文時代の打製石斧も出土しています。

境野新遺跡は、昭和47年の発掘調査で古墳時代の竪穴住居跡が見つかり、遺跡公園として整備されています。今回の調査区はその北西部にあたり、南北に横切る大小の溝や、穴を検出しました。遺構の時期は特定できませんでしたが、遺物包含層中や溝の中から、ナイフ形石器・剥片(旧石器時代後期)・縄文土器・石錐(縄文時代晚期)・須恵器(奈良~平安時代)・越中瀬戸焼・伊万里焼の陶磁器片(江戸時代)が出土しました。濃飛流紋岩製のナイフ形石器は、東山型と呼ばれる東北系のナイフ形石器の加工技術で、刃には動物の骨などを削ったりした時につけたキズや光沢がよく観察できます。

ナイフ形石器をはじめとする旧石器時代後期(約15,000年前)の石器や石器を作った原石などが発見されており、この地で石器を製作し、生活を営んでいたものと想定されます。

また、両遺跡では西と東の旧石器技法でそれぞれ製作された石器が見つかっており、当地が約15,000年も昔から東西旧石器文化の交流地域であったことがうかがえます。

(近藤顯子・鹿島昌也)



(実大)



(1/2)

尖頭器(向野池遺跡)

ナイフ形石器(境野新遺跡)



調査地遠景(西から)

神通川河口に営まれた中世集落

よかたあらやいせき 四方荒屋遺跡

四方荒屋遺跡は、神通川左岸の河口付近に位置し、海岸砂丘内側の低湿地に立地します。海岸からは、約500mの距離にあり、標高は1.5m前後です。

このあたりは、江戸時代まで神通川が流れていますが、1658年、1668~69年の洪水で流れが変わり、現在にいたります。

遺跡の周辺には、縄文時代から江戸時代までの遺跡が、多く分布しています。特に弥生時代から古墳時代にかけては、本遺跡や江代割遺跡で堅穴住居が検出されており、広い範囲で集落が形成されたと考えられます。

今回の発掘調査は、宅地造成に伴うもので、主に室町時代から江戸時代にかけての遺構を確認しました。遺構には、畠・井戸3基・道路2条・掘立柱建物3棟・区画溝1条などがあります。出土遺物には、須恵器（奈良時代終わり~平安時代初め）・珠洲焼・土師質土器（室町時代）・越中瀬戸焼・伊万里焼（江戸時代）などがあります。

井戸は、すべてが素掘り井戸で、直径約2m、深さ約1.2mのものが2基あり、もう1基には、井戸を埋めるときに大きな石がたくさん投げ込まれていました。

区画溝は、幅約90cm、深さ約20cmです。これまでの調査において、今回調査区の約100m北側の地区でも周囲に溝を廻らせた室町時代の屋敷跡が検出されており、今回検出した区画溝は、これに関連するものと考えられます。

畠は、調査区南側部分で確認しました。幅40cm~60cm、深さ20cm前後の溝が約30cm~50cm

の間隔をおいて、東西方向にはほぼ平行にならんています。これらは、何本かごとにまとまっており、それぞれの軸に多少のずれがあることから、全てが一度に営まれたものではなく、何回かの畠の作り変えによるものと思われます。

畠の土を分析したところ、遺跡はかつて洪水の影響を絶えず受けていましたが、室町時代以降にはその影響も少なくなり、畠は洪水でたまたま土をそのまま耕作土としていたことがわかりました。（原田幸子）



井戸



畠状遺構群（南から）

奈良時代の川岸では 任海宮田遺跡

任海宮田遺跡は奈良時代から中世に営まれた集落遺跡です。集落は神通川から流れ込む幾筋もの小河川の間の高まりに立地しているので、南北に長い広がりをもっています。

小河川の幅は広く、奈良時代の初め頃にはゆるい流れをもっていたようですが、次第に埋まって葦などが生育するような環境に変わりました。

調査地点では、奈良時代の小河川の岸（高さ 1.8 m）が検出され、その落ち込みに沿って多くの土器破片が出土しました。不要になつた土器を岸から川へ捨てたのでしょう。花粉分析の結果、その頃の川は、西側の深みで葦が生え、東側のやや浅いところでは水稲耕作が行なわれていたことが明らかになりました。

その川は室町時代頃までに 1 m ほど埋まり、だいぶ陸化しました。その頃新たに溝が掘られ、排水を良くし、高床建物も建築されました。江戸時代以降は、水田として現在まで利用されていました。

（古川知明）



奈良時代の土器廃棄跡

低湿地の弥生の村 東老田Ⅱ遺跡

東老田Ⅱ遺跡は、県営ふるさと農道整備に伴う発掘調査で、弥生時代の遺構が発見されました。

遺跡は、射水平野の沖積低地上（標高 3 m）にあり、周辺よりやや小高いところに立地しています。

調査では、弥生時代終わり頃の溝や穴が発見されました。溝は南東から北西方向へ延びる幅 3.5 m のもので、溝内からは煮たきに使った土器（甕）1 個体分が壊れた状態で出土しました。

遺跡は、昭和 40 年頃のは場整備工事で大きく削られてしまつたため、住居跡などの建物は発見されませんでした。今回検出された溝はおそらく村の中を流れる排水路であったと考えられます。

射水平野の沖積低地では、富山市利波遺跡、下村加茂遺跡など弥生時代に多くの村が営まれるようになります。水田経営のため豊富な水のある沖積低地に進出し、やや小高くなった微高地に居を構えたのでしょうか。下村加茂遺跡では、大きな河川を貯木場として利用した跡が発見されており、弥生人の生活の知恵がうかがわれます



弥生時代の溝内の土器

（古川知明）

古墳のすそを壊してつくられた江戸時代の集落

HS-07 遺跡

HS-07 遺跡は、県営農免農道整備事業に伴い、平成11年5月に試掘確認調査、同年10月から発掘調査を行いました。

遺跡は、富山市水橋中馬場に所在し、白岩川右岸扇端部、標高約9mに位置します。遺跡の周辺には、縄文時代後期から江戸時代にわたる数多くの遺跡が存在します。

白岩川流域には、県内では数少ない平野部の古墳群である「白岩川流域古墳群」が形成され、稚兒塚古墳（円墳、径約46m）や竹内天神堂古墳（前方後方墳、全長約

38m）ほか多くの古墳が存在しています。その中の宮塚古墳（円墳、推定径約25m）と若王子塚古墳（円墳、推定径約25m）の間は40m離れており、その間に今回の調査地があります。試掘確認調査では、若王子塚古墳には周溝と考えられる幅約4mの溝が確認されています。安土桃山時代の終わりから江戸時代初めにかけて營まれた集落は、この周溝や古墳のすそを削って作られていたことがわかりました。

発掘調査で確認された遺構には、掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸、溝、土坑等があります。特に井戸は、狭い範囲に77基以上もあり、大変密集しています。短期間のうちに、多くの井戸が何度も作り替えられながら使われていたようです。



井戸内の遺物出土状況



石組井戸全景（西から）

この井戸群の北側には、幅約1.5m、深さ約80~90cmの大きな溝があります。この溝は他の溝に比べて深く、形態も少し違います。溝の中に粗糲な杭列の跡が見られることから、水流を調節する施設を設けた水路と考えられます。

井戸の中からは、茶臼の破片・五輪塔の一部（火輪）・クルミ・ウリ・粉殻などの種子類も多く出土しています。また、径50cm前後の小さな土坑からは、金箔のついた金具も出土しています。

（原田幸子）

呉羽山丘陵山麓の縄文村

北代西山遺跡

北代西山遺跡は、市が進める都市緑化植物園計画に伴い発掘調査を行ったものです。遺跡は呉羽山丘陵の西のふもと、県立図書館の北側に広がる台地の一角にあります。

縄文時代にはこの周辺に数多くの集落が営まれていました。なかでも「富山市北代縄文広場」として復元整備された国史跡北代遺跡は、縄文中期の大集落として中核をなすものでした。

北代西山遺跡は、縄文前期を主とする遺跡で、発掘調査では焼けた石を埋めた穴（時代不詳）や、縄文土器（縄文時代前期・中期・晚期）・打製石斧・石錘・石冠を転用した凹み石が出土しました。明らかな遺構は穴のみで住居跡は発見されていないことから、定住を目的とした場所ではなく、キャンプ的な生活の場であったと考えられます。

他に弥生時代・奈良時代の土器などもあります。

石冠を転用した凹み石

（古川知明）



い・み・ず

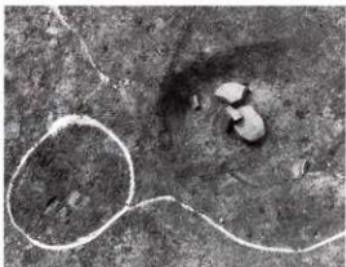
射水丘陵の土地利用 開ヶ丘中・開ヶ丘中山IV・開ヶ丘ヤシキダ遺跡

富山市開ヶ丘地区では、県営畠地帯総合土地整備事業に伴う調査を行っています。開ヶ丘地区は富山市の南西端に位置し、射水丘陵の東端部にあたります。

射水丘陵では、縄文時代には豊富な食料を求めて多くの集落が営まれました。また、奈良・平安時代には、起伏の多い地形と、付近の山林の豊富な木材を燃料として利用した窯業遺跡が数多く作られ、射水郡が經營したとみられる製陶・製鉄の大窯業地帯を形成していました。この丘陵地帯に属する開ヶ丘地区でも、縄文時代中期の集落や、丘陵谷あいの傾斜地を利用して築かれた奈良・平安時代の須恵器窯・炭焼窯などが発見されています。

平成11年度は、開ヶ丘中遺跡・開ヶ丘中山IV遺跡・開ヶ丘ヤシキダ遺跡の試掘確認調査を行いました。開ヶ丘中遺跡では、縄文時代の狩猟用の落とし穴、開ヶ丘ヤシキダ遺跡では、平安時代の炭焼窯・竪穴住居・掘立柱建物の柱穴などが発見されました。

縄文時代の落とし穴は、開ヶ丘中遺跡から5km離れた開ヶ丘狐谷II遺跡でも発見されており、丘陵の周辺部や尾根の高いところなど、動物の通り道となるところに落とし穴をしかけていたと考えられます。



開ヶ丘ヤシキダ遺跡須恵器出土状況

平成 11 年度 発掘調査一覧

No. は市遺跡番号を示す

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積(m ²)	時代	遺跡の種類
1 591	金屋南遺跡	金屋	企業団地造成	10,800	平安・中世・近世	集落
2 014	四方荒屋遺跡	四方荒屋	分譲宅地造成	1,280	中世・近世	集落・島
3 245	清水堂南遺跡	水橋清水堂	県営ほ場整備	2,530	縄文・弥生・中世・近世	集落・墓地
4 070	東老田Ⅱ遺跡	東老田	県営農道整備	496	弥生・近世	集落
5 501	任海宮田遺跡	任海	市道路改良	455	奈良・平安・中世	墓地
6 464	向野池遺跡	境野新	インター側道建設 インターチェンジ建設	145 269	旧石器・平安 旧石器・縄文・奈良・中世	集落
7 365	境野新遺跡	境野新	インター側道建設	50	縄文	集落
8 580	HS-07 遺跡	水橋中馬場	県営農道整備	1,200	中世・近世	集落
9 163	北代西山遺跡	北代	都市緑化植物園	1,230	縄文・奈良	集落
10 125	北代遺跡	北代	個人住宅建設	250	奈良	集落

平成 11 年度 試掘確認調査一覧

No. は市遺跡番号を示す

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査結果
1 499	鎌川館跡	鎌川	国道拡幅工事	遺跡なし
2 568	杉瀬	林崎	倉庫建設	穴、溝(平安・中世) 土師器、須恵器等
3 479	黒瀬大屋	黒瀬大屋割	共同住宅建設	遺跡なし
4 041	高鳥	高鳥	個人住宅建設	遺跡なし
5 580	HS-07	水橋中馬場	県営農道整備	溝、土坑、井戸(中世) 須恵器等
6 240	若王子塚古墳	水橋中馬場	県営農道整備	古墳周溝
7 392	寺町大平下	寺町字大平下	個人住宅建設	遺跡なし
8 449	開ヶ丘中	北押川	県営畠地帯統合整備	土坑等(縄文)、道路跡、焼櫻土坑等(奈良)
9 448	開ヶ丘中山IV	開ヶ丘紙袋田	県営畠地帯統合整備	土坑等(縄文)、掘立柱建物等(奈良)
10 445	開ヶ丘ヤシキダ	西押川字茨山	県営畠地帯統合整備	堅穴住居跡等(奈良) 土師器、須恵器等
11 125	北代	北代字大畑	個人住宅建設	土坑(縄文・奈良) 縄文土器、土師器
12 206	中富居	上富居字上江	共同住宅建設	遺跡なし
13 479	黒瀬大屋	店舗兼共同住宅建設	遺跡なし	
14 206	中富居	上富居字大百丸	駐車場建設	遺跡なし
15 072	東老田I	東老田	個人住宅建設	遺跡なし
16 228	金尾	水橋北馬場	県営農道整備	遺跡なし
17 580	HS-0 7	金広	県営農道整備	珠洲焼(中世)、越中瀬戸、近世陶磁器等
18 206	中富居	上富居	分譲宅地造成	遺跡なし
19 528	下熊野	安養寺	店舗建設	遺跡なし
20 164	茶屋町西山	茶屋町字長割	都市緑化植物園建設	堅穴住居(縄文)等 縄文土器等
21 210	宮町	宮町	資材置場造成	遺跡なし
22 513	上野井田	二俣	ゴルフ練習場建設	溝(縄文)等 縄文土器、打製石斧等
23 005	利波	利波	個人住宅建設	遺跡なし
24 072	東老田I	東老田	店舗・駐車場建設	遺跡なし
25 060	水橋恋塚	水橋恋塚	個人住宅建設	遺跡なし
26 060	水橋恋塚	水橋伊勢領	個人住宅建設	遺跡なし
27 222	金尾新西	水橋金尾新	個人住宅建設	遺跡なし
28 480	黒崎種田	黒瀬字大屋割	工場敷地拡張	遺跡なし
29 365	境野新	境野新	インター側道建設	ナイフ形石器(旧石器)、縄文土器等
30 518	石田打宮	小杉	個人住宅建設	遺跡なし
31 479	黒瀬大屋	黒瀬字大屋割	店舗建設	遺跡なし
32 010	今市	布目	駐車場建設	溝、穴 弥生土器、近世陶器

平成 11 年度埋蔵文化財センター事業

1. 埋蔵文化財発掘調査

- ・**発掘調査** 発開に先立って、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査を行います。
金屋南遺跡、清水堂南遺跡ほか 全10件
- ・**出土品整理** 発掘調査で出土した遺物や図面を整理し、報告書にまとめる作業を行います。
桜谷南遺跡、四方荒屋遺跡ほか 全10件

2. 北代縄文広場管理

4月にオープンした北代縄文広場を市民に公開し、活用するため、管理運営を長岡校下自治振興会に委託しています。

3. 桜谷南遺跡保存委員会開催

桜谷南遺跡を保存し、将来的に史跡公園などとして整備・活用することに先立ち、関係機関や専門家、地元の代表を交えて保存方法を検討する委員会（委員長・楠原 勝）を開催しています。

第1回委員会 平成11年12月1日（水）（初会合、遺跡の概要説明等）

第2回委員会 平成12年2月25日（金）（保存の基本理念・基本構想について）

委員等名簿

氏名	所属	氏名	所属
坂井秀亦	文化庁記念物課調査官（アドバイザー）	楠原 勝	富山市文化財調査審議会委員長
林 清文	富山県教育委員会文化財課課長（〃）	京田良志	富山市文化財調査審議会委員
上原真人	京都大学大学院教授	小島俊彰	富山市文化財調査審議会委員（金沢美術工芸大学教授）
富成哲也	高岡市立埋蔵文化財調査センター所長	村瀬政雄	古沢校下自治振興会会长
西井龍義	富山考古学会副会長	北野久夫	桜谷自治会会长
岸本利敏	富山県埋蔵文化財センター所長		

4. 展示・普及事業

調査を行った遺跡の出土品の展示や現地説明会などを行い、市民の方々に公開しました。

(1) 発掘速報展

テーマ	会場	展示期間	備考
「桜谷南遺跡－古代の瓦・須恵器生産工房－」	富山市民俗民芸村考古資料館	11,4.1～8.29	桜谷南遺跡瓦陶兼業窯出土の瓦・須恵器、仏教遺物などの展示
「金屋南遺跡出土品速報展」	富山市役所多目的ホール	12,2.3～2.10	金屋南遺跡出土品の展示
「生産と祈り」	富山市民俗民芸村考古資料館	12,2.15～3.31	金屋南遺跡、清水堂南遺跡ほか内5遺跡の出土品の展示

(2) 遺跡現地説明会 清水堂南遺跡 平成 11 年 10 月 2 日（土）見学者 100 名

金屋南遺跡 平成 11 年 10 月 31 日（日）見学者 100 名

(3) 展示

展示名	テーマ	会場	期間	備考
奥田小学校ふるさと 考古教材展示室第4回展示	「鍾倉・室町・戦国時代 の富山」	奥田小学校	11,5,26 ～12,3,31	金屋南遺跡・清水堂B遺跡ほか市内6遺跡の出土品の展示
第7回三郷古美術鑑賞会	「木橋二杉遺跡出土品展」	三郷地区センター	11,6,6	木橋二杉遺跡出土品(「君万呂」と書かれた土器等)の展示
上条公民館まつり	「木橋清水堂地内遺跡 出土品展」	上条公民館	11,11,3	清水堂南遺跡ほか出土品・写真パネルの展示

(4) 資料貸出

貸出資料	点数	貸出先	貸出目的
豊大塚遺跡出土人面 墨書き土器出土写真	1	財石川県埋蔵文化財センター	第1回石川の発掘展「動物と祈り」展 (11,7,25～11,9,30)
宮町遺跡出土弥生時代 翡翠玉作資料	9	鳥根県立八雲立つ風土記の丘 資料館	夏季特別展「海—潮流に乗った古代の恋物語—」展 (11,7,20～11,8,31)
桜谷南遺跡出土土製おもり	1	富山市市民生活相談課	第34回富山計測展(古計量器展) (12,3,16～12,3,17)

(5)講演

年月日	講演者	講演会名	演題	備考
11, 7,18	藤田所長	「渤海」平成 11 年夏季研修会	「縄文人の恋愛感」 —縄文時代の男と女—	
11, 8, 1	藤田所長	八雲立つ風土記の丘資料館講演会	「出雲と越と筑紫について」	
11, 8,21	鹿島学芸員	平成 11 年度越中史壇会研究発表会	「柳谷南遺跡—大量の軒丸瓦生産と仏教遺物の発見」	
11, 8,26	古川主任学芸員	富山県埋蔵文化財センター普及講座 『ふるさとの考古学』	「史料の保存と活用—北代縄文広場のオープンから—」	
11, 9,18	藤田所長	富山市自治公民館連絡協議会 第3ブロック協議会講演会	「縄文人の生活と心」	
11,10,19	藤田所長	市公連第1ブロック協議会	「北代縄文広場について」	
11,10,20	藤田所長	社会福祉法人富山市社会福祉協議会	「縄文時代の先進地富山」	
11,10,27	鹿島学芸員	『ふるさと探訪講座』	「柳谷南遺跡について」	
11,11,10	古川主任学芸員	第2回古代の富山（ロマンを訪ねて）	探訪「古代の富山」	北代縄文広場見学
11,11,13	古川主任学芸員	富山市上郷町新町町内文化祭 文化講演会	「北代遺跡から見た縄文文化について」	
11,11,14	藤田所長	富山考古学会創立 50 周年記念シンポジウム『富山平野の出現期古墳』	「富山県における四隅突出墳出現の系譜について」	
12, 1,30	小林学芸員	平成 12 年度富山考古学会総会	「富山市金屋南遺跡」	
12, 2, 2	小林学芸員	平成 11 年度埋蔵文化財発掘調査 専門職員等研修会	「富山市金屋南遺跡」	
12, 2, 19	古川主任学芸員	長者ヶ原遺跡の会 新春のつどい	「北代遺跡の保護と活用について」	
12, 3,25	藤田所長	氷見市教委『ふるさとを学ぶ講座』	「古代の氷見」	

5.全史協北信越大会開催

平成 11 年度全国史跡整備市町村協議会北信越地区協議会総会の開催

期間 平成 11 年 7 月 15 日(木)～7 月 16 日(金) 会場 吾羽ハイツ

視察研修 北代縄文広場（史跡北代遺跡）、白鳥城跡、金屋南遺跡ほかの見学

6.遺跡除草管理

境野新遺跡、古沢塚山古墳、栗山古墳、押上古墳

7.研究

(1)小研究会（会場：埋蔵文化財センター会議室）

- ・韓国鮮文大学校 李 亨求教授 「韓国晋州市大坪面玉房 5 地区の発掘調査成果」
平成 12 年 1 月 17 日(月)

- ・埋蔵文化財センター 鹿島学芸員 「柳谷南遺跡出土須恵器の編年」
平成 12 年 2 月 25 日(金)

オブザーバー：板井秀弥、上原真人、富成哲也、宮田進一、安念幹倫、河西健二

(2)論文・報告

- ・浅川勝男 1999,11 「堅穴住居と高床式建物」『文化財を探る科学の眼⑥ 古代住居・寺社・城郭を探る』国土社
- ・岡村道雄 監修 1999,12 『古代遺跡観察図鑑「全国たずねてみたい古代遺跡」』成美堂出版
- ・鹿島昌也 1999,11 「平成 11 年度研究発表会要旨 富山市柳谷南遺跡」「富山史壇」第 130 号 越中史壇会

- ・鹿島昌也 2000.3 「富山市柳谷南遺跡出土瓦考」『富山史壇』第131号 越中史壇会
- ・京都環境計画研究所 1999.8 「时空を越える—縄文から現代まで—(北代縄文広場)」『建築ジャーナル』平成11年8月刊
- ・小島徹・藤田富士夫・酒井鶴作・橋本正幸・高慶春・三郷秀典 1999.10 「森秀雄先生」を囲んで“あけぼのを語る”座談会記録』『富山市考古資料館紀要』第19号 富山市考古資料館
- ・『週刊宝石』 1999.10.28 「特集ワクワク【考古学】大研究 教科書が教えなかった縄文ロマン1万年の旅(北代縄文広場)」
- ・平口哲夫・古川知明 1998.8 「富山市北代遺跡(縄文中期) 堀立柱建物の柱穴から出土した鯨椎骨」『日本海セトロジー研究』第9号 日本海セトロジー研究会
- ・藤田富士夫 1999.5 「縄文尺はなぜ使われたのか」『縄文学の世界』小林達雄編 朝日新聞社
- ・藤田富士夫 1999.7 「高志の中の出雲文化」『夏期特別展 海一海流に乗った古代の恋物語』島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
- ・藤田富士夫 1999.7 「書評 中国古玉器総説」『月刊にしか』113号 大修館書店
- ・藤田富士夫 1999.11 「富山県における四隅突出構出現の系譜について」『富山考古学会創立50周年記念シンポジウム 富山平野の出現期古墳』富山考古学会
- ・藤田富士夫 2000.1 「縄文文化の中の外来要素」『考古学ジャーナル』No.454 ニュー・サイエンス社
- ・藤田富士夫 2000.1 「富山県の埋蔵文化財 越中の国の誕生①—首長墓の登場—」『明日を拓く富山教育』第841号 富山県教育会
- ・藤田富士夫 2000.1 「魏志倭人伝の白珠五千孔青大勾珠二枚」をめぐる若干の考察」『考古学論究』第7号 立正大学考古学会
- ・藤田富士夫 2000.3 「富山県の埋蔵文化財 越中の国の誕生②—王の誕生—」『明日を拓く富山教育』第842号 富山県教育会
- ・古川知明 1999.12 「最新の整備事例2 北代遺跡—富山市北代縄文広場—」『月刊文化史料』11/平成11年(434号)
- ・古川知明 2000.2 「平成11年度普及講座講演要旨(2) 史跡の保存と活用—富山市北代縄文広場のオープンから—」『理文とやまと』第69号 富山県埋蔵文化財センター
- ・麻柄一志 1999.9 「富山県の埋蔵文化財 土の中に住む古代人—富山の最新考古学事情—(2)」『明日を拓く富山教育』第839号 富山県教育会
- ・森 浩一 1999.5 「今週の調査ノートから8 北代縄文広場」『朝日グラフ』平成11年5月28日号
- ・森 浩一 1999.11 「日本を発掘する[連載第31回]北代遺跡」『ジバング俱楽部』平成11年11月号
- ・渡辺 誠 1999.10 「縄文人の食文化」『富山市考古資料館紀要』第19号 富山市考古資料館

8. 埋蔵文化財センター組織

所長1 ————— 所長代理1 ————— 主任学芸員1 ————— 主事1
(生涯学習課長代理) 学芸員6 嘴託1

〈ご案内〉 「奈良時代の富山を探る」フォーラム開催予定

柳谷南遺跡の瓦窯や水橋地区の遺跡発掘調査の成果をもとに、越中国成立の原点ともいるべき奈良時代に焦点をあてたフォーラムを開催します。

日 時: 平成12年9月23日(祝) AM10:00~

場 所: 水橋ふるさと会館

(富山市水橋町312, TEL 076-478-0019)

◎フォーラム内容

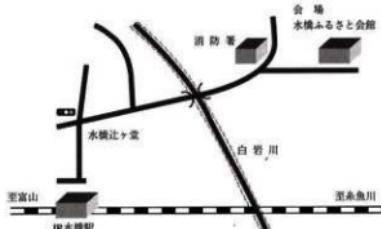
第1部 発掘調査基調報告 水橋荒町遺跡ほか

第2部 フォーラム「(仮)古代の道と駅」

◎企画展 水橋地区遺跡の出土品の展示(水橋ふるさと会館)

問い合わせ 富山市教育委員会

埋蔵文化財センターまで



富山市教育委員会 埋蔵文化財センター所報 No.1

富山市の遺跡物語

平成12(2000)年3月31日

編集・発行/富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒930-0803 富山市下新町1-12

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810



このロゴマークは柳谷南遺跡で出土した軒丸瓦の文様をデザインしたもの